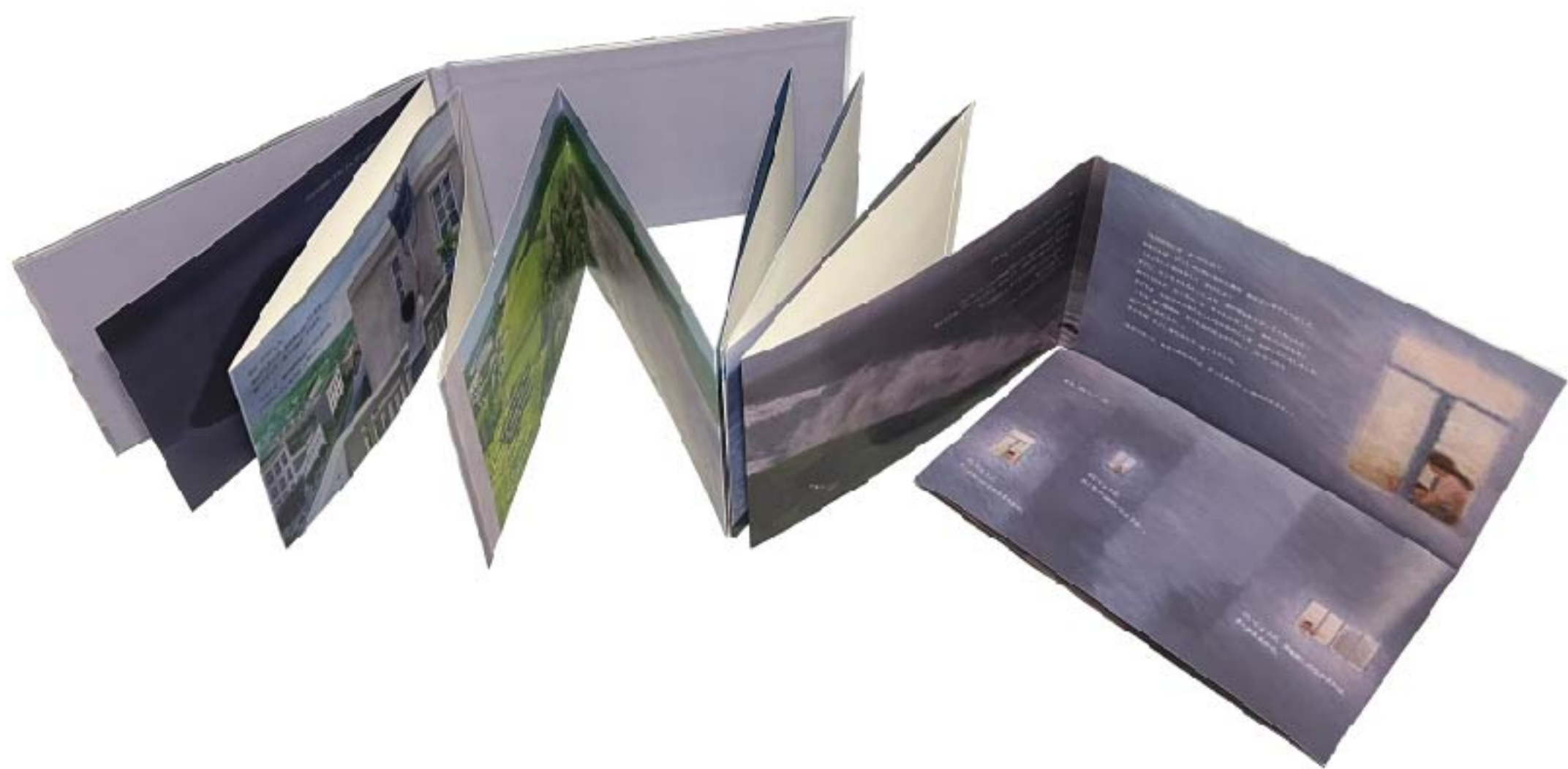
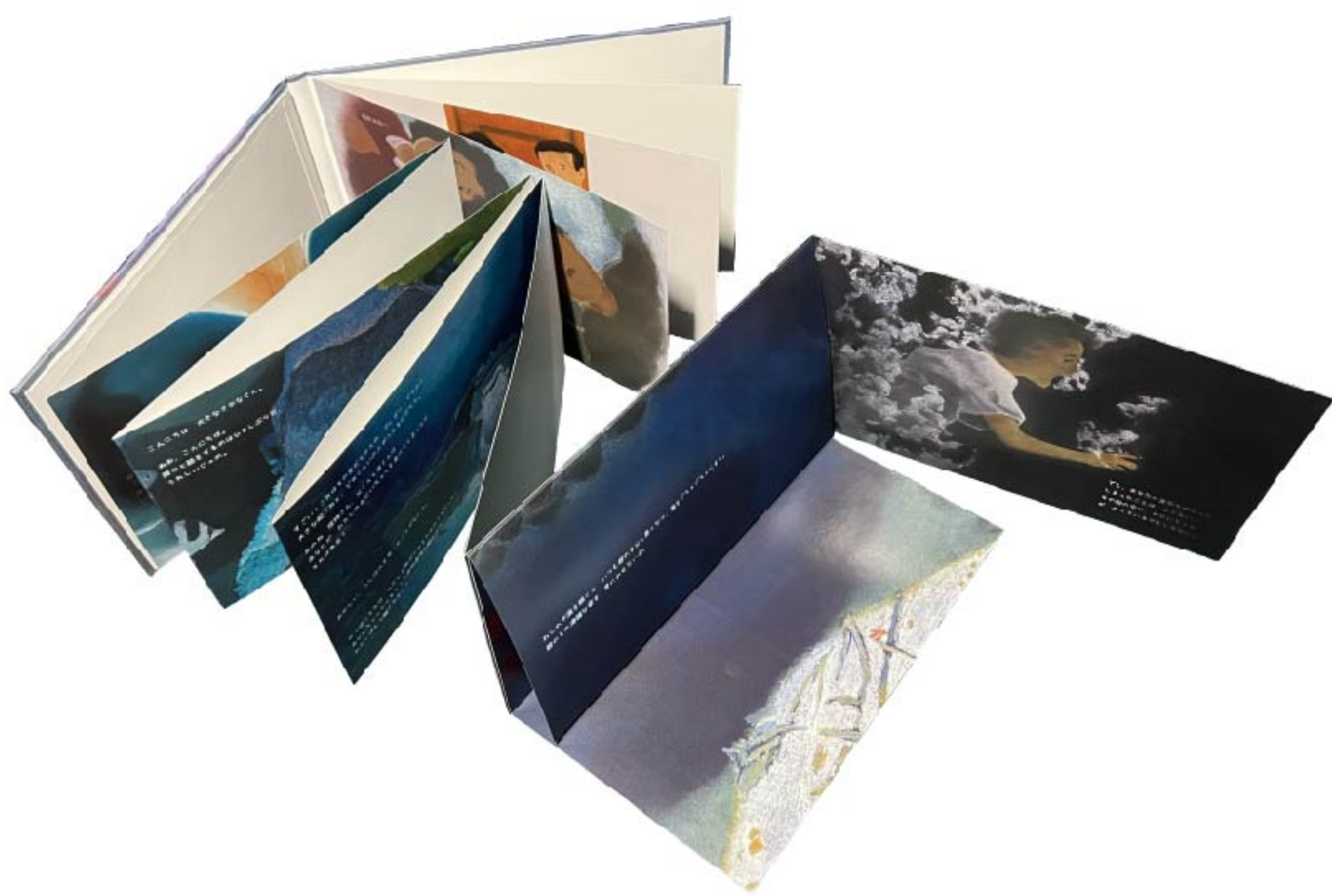


文 僊
WEN Cai



海の怪物

ソフトパステル、石英砂、雲母、Photoshop



シリーズ絵本『海の怪物』

『海の怪物』シリーズ絵本は、「海の怪物」と呼ばれる伝説の怪物（オリジナルキャラクター）にまつわる2作の物語からなる。

「怪物」と呼ばれるものはたいてい、人類が未知のものに対する想像の産物だ。知らないから、分からないから、コントロールできないから、怖い。だから「怪物」のほとんどは、醜い外見と邪悪な心を持っているとされる。しかし、わたしはそうは思わない。知らないから知りたい、見たことがないから見たい。この「好奇心」は「恐怖」よりも大事にするべき心のはたらきだと思う。こんな思いから「海の怪物」のストーリーが誕生した。

第1作の『海の怪物』は、親に反対されてもずっとずっと憧れていた海へと探検しに行った、ある子どもの物語だ。

「海に怪物がいるなんて、わたしを怖がらせるための嘘に決まっている」と思い込んでいた子どもは怪物と出会い、海の世界での冒険を始めた。物語の終盤、子どもは海が秘めていた恐ろしい一面と出会い、海の真実を知る第一歩を踏み出す。

そして第2作『海の怪物 - 海から離れた物語 -』は、第1作で語られた出来事よりも前の物語である。そこに登場する子どもたちは「海の怪物は太古の時、陸に上がった。しかし海から離れた怪物の皮膚は乾燥して岩のようになってしまった。海に戻れなくなった海の怪物は、それから陸の一部になり、静かに陸の世界を守り続けた」という伝説を信じていた。子どもたちは怪物の居場所を探すが、結局見つけることができなかった。しかし、その子どもたちの努力は見えないところで変化を起こし、怪物が目覚めるきっかけとなったのである。

『海の怪物』シリーズ絵本の1作目は、本学への入学前から構想・試作されたものである。入学後に、絵本としての表現の充実を図って修正され、更なる研究を重ねて2作目へと展開した。例えば、人間の常識を超えた怪物が存在する物語の世界観をよりよく表現するために、パタパタ絵本の製本方や異時同図法などの表現を取り入れた。1ページずつ読むこともできるが、全てのページを展開してみると世界のもうひとつの姿、怪物が潜む真実の世界が見える。

この作品は、自我意識に目覚める年齢の子どもと大人向けの絵本である。人生の中には報われない努力がある。思いがけないハプニングもある。大事なのはこれらの出来事とどう向き合うのかということだ。人生の道を歩み、予想外の事件と遭遇して不安になる時、先が見えず諦めに囚われかけた時、私たちは「未知」を探るような気持ちで困難と直面できるはずなのだ。『海の怪物』シリーズ絵本を通じ、私はこんなメッセージを伝えたい。